



歯科医・彌勒寺寛之の 後悔しない 歯科治療の受け方

第13回 「失って初めてわかる 歯のありがたさ」

こんにちは。土沢デンタルクリニック院長の彌勒寺です。「去年、定年になって、これからの人生で旅行に行くのが楽しみなのに、歯が抜けてしまってこのままだと入れ歯になってしまいます。これから美味しい物をたくさん食べたいし、人生を満喫したいから入れ歯にはしたくない」「これまでは子供にお金がかかって、自分は後悔しただったけど、子供も自立したし、これまで放ったらかしにしていた自分の口をそろそろ大切にしようと思っている」「入れ歯だと、味もわからないし、バネをかけている歯がグラグラしてくるし、もっと良い方法ないのかな?」「まだ35歳なのに、奥歯が2本もなくて、入れ歯しかないと言われたけど、この年で入れ歯にするのは嫌だ!」私たちのところにお見えになる患者様のなかに、このようにおっしゃる方は相当数いらっしゃいます。歯は失ってみて初めてその大切さが分かるものと言えましょう。

一方で、「歯はたくさんあるから、1本ぐらいなくても良いでしょ」と思う方もいらっしゃるようです。しかし、これは大きな間違いです。指にも1本1本、役割があるように、歯にも1本1本、役割があるのです。

例えば、下顎の前から6番目の歯が抜けてしまって、そのまま放っておくと、どのようなことが起こるでしょうか? 次のようなことが起こる可能性が高いのです。

1. 咬み合わせる下の歯がないので、上の歯が出てきてしまう
上の歯は下の歯がなくても、咬む機能を維持しようと

して、咬む相手を探して伸びてきてしまうのです。そうになると、後で下の歯を入れるときには咬み合わせがズレているので、上の歯を削らないといけなくなってしまいます。

2. 一番奥の7番目の歯が抜けた歯のスペースに倒れこんでくる

歯が斜めに倒れこんでしまうと、これを治すには矯正治療が必要になってしまいます

3. モノが挟まって咬みづらいので反対側でばかり咬んでいると、体のバランスが悪くなる

かみ合わせは全身の体のバランス、全身の健康にも大きな影響を与えています。その際に、1本1本の歯が重要な役割を果たしているのです。食べられれば、しゃべることができれば何でも良いというのは違うのです。

このように、歯は見えないし、動かないから1本1本の役割が軽視されがちですが、非常に重要な役割を担っているのです。

では、歯を失ったときにはどう対応するのが良いのでしょうか? 実は、歯を失ってしまったときにそれを補う方法としては、

- ①ブリッジ
- ②インプラント
- ③入れ歯

この3つしかありません。

次回からはそれぞれの短所や長所を取り上げて行きたいと思います。



～著者プロフィール～

土沢デンタルクリニック院長 彌勒寺 寛之 (みろくじ ひろゆき) 1979年東京生まれ
住 所 宇都宮市本丸町11-12 T E L 028-634-5141 (URL) <http://tda86.com>
所属学会

日本口腔インプラント学会 日本歯科審美学会 日本歯周病学会
日本小児歯科学会 日本ヘルスケア歯科研究会

※学会で得た知識を活かして、個人的に無料相談室を開設しました。

お口のことで疑問に思っていることなどがありましたら、お気軽にご相談下さい。
当クリニックのホームページからメールで受け付けています。

(この無料相談室は予告なく終了することがありますので、ご了承下さい。)

